

心の衝動

イーシャ・サーデサイが語る物語

2019年5月11日(日)、母の日と、『プレイ・オブ・コンシャスネス』の50周年を祝って、SYDAファウンデーションはライブ動画配信によるグルマーイとのサツァングを開催しました。グルマーイはこのサツァングに、「愛は時を超える」とタイトルを付けました。

それは素晴らしい瞬間が次から次へと連なっていたイベントでした。参加した人たちは後に、それがどれほど深く、変容をもたらす体験であったか——グルマーイの恩恵、グルマーイの教え、グルマーイの音楽がいかに関わりの心を取り囲む壁を貫いたか、そのため、愛が、時を超える愛が、彼らの存在の中に小川のように流れたか——を話しました。グルマーイのこの上なく美しい詩、「母の誇り」が朗読された時、シュリー・ニーラーヤのホールでは、ほとんどの人が目を潤ませていました。

このサツァングの最中に、グルと弟子の関係と、その関係を支える与えることと受け取ることの循環を特に典型的に表すものとして、際立った瞬間がありました。その場面での弟子は、生後17カ月の幼児でした。その子はシュリー・ニーラーヤの前の方、グルマーイのちょうど前に、母親と共に座っていました。

サツァングが終わりに近づき、司会者のエイサ・シーゲルが締めくくりの言葉を述べていた時、その幼児が立ち上がりました。その子の両脚は明らかに、まだ自分の身体をしっかりと立たせること——彼の計り知れないエネルギーと熱意を支えること——を学んでいるところでした。

それにもかかわらず、その幼児がそばに座っていた若い女性の所に歩いて行き、彼女が身に着けていた幾つもの腕輪を引っ張り始めたその動きには、確信性がありました。やがて、彼女の助けと快諾を得て、彼はそのうちの一つを彼女の手首から外し、自分の物としました。

その瞬間、彼はグルマーイを見上げました。そして、グルマーイは彼を見詰め返しました。彼女の目の中の愛は、何カ月も、そして恐らく何年も先まで、ただ思い出だけでも私たちの心を感動させるようなものでした。

そしてその小さな男の子は、両腕を差し伸べ、その指は腕輪をしっかりとつかみ、グルマーイに向かって歩いて行き、それをささげたのです。

この子は、グルにささげものをするとということについて、まだ何も教えられていなかったということは、知っておくべきことです。しかし、覚醒のその瞬間——彼の小さな耳が母の日に向けたグルマーイの詩の言葉を捉えた時に、バーバが『プレイ・オブ・コンシャスネス』を書いたことについてスワミ・イーシュワラーナンダが話すのを聞いた時に、チャンティングの甘美な調べに浸り、グルマーイと共にいることやサンガムと共にいることを喜んでいた時に——彼は生まれながらに持つ一種の知識に導かれたのです。彼は自分自身を与えなければならないことを分かっていました。彼は内側から流れ出す愛を明らかに表現するために、グルマーイにささげものをしなければならないことを分かっていたのです。それで彼は腕輪を差し出したのです。

年齢はその瞬間には無関係でした。その男の子は、彼の心の命令、衝動に従っていたのです。

